

# 受験における経験について

趙一妹

私は南方医科大学衛生経済学科を卒業しました。第二学位は衛生法学です。大学卒業後、2011年10月に亜細亜友之会外語学院に入学し、日本語を学びながら、大学院への進学準備をしました。

先生のご指導により、2012年10月に順調に早稲田大学経済学研究科の正式な大学院生になりました。ここで、私の大学院進学における経験を述べさせていただきます、少しでも皆さんのお役に立つことを願っています。

大学院進学準備において、先輩達との交流及び様々な大学の情報を収集する中で、日本の多くの大学が外国人学生向け英語授業プログラムを逐次に行っていることが分かりました。具体的には、願書提出から試験までの一連の過程を英語で行うことで、日本語成績の証明は必要ではありませんでした。入学後の授業も英語が主でした。私にとって、授業の中で英語と日本語を同時に併用できることは非常に魅力的だったので、試してみることにしました。

参加した大学院の受験は書類審査と面接でした。書類審査の中では、基本的な書類審査と英語成績証明（TOEFL 或いは TOEIC）の他に、詳細な研究計画書と専門的な論文が要求されました。この受験準備の中で、私は大量の関係分野の論文を閲覧したので、専門知識が増え、英語の作文能力もアップすることができました。面接の時には、主に研究計画書と専門知識に関する質問が多く、同時に大学で学んだ知識にも触れました。筆記試験がないため、面接官の教授は様々な角度から私がどの程度の専門知識を身につけているかを考査し、どのような研究課題を持っているかが問われました。この受験準備は、私にとってもう再度の復習と自分がもっている専門知識に対する点検でもあり、知識の再構築とも言えるでしょう。

しかし、英語が大事と言っても、日本語は大事ではないとの意味ではありません。キャンパス生活と日本社会に本当に溶け込むためには、日本語は重要不可欠です。面接の時に、教授からも提言していただきましたが、ある程度の日本語レベルがあれば、日本語で行う他の授業も受講できるので、授業の選択範囲が広がると言われました。

亜細亜友之会外語学院での勉強については感謝の気持ちが一杯です。なぜなら、最初は簡単な文法と単語しか知らなかった私は、ここで日本語の基礎をしっかりと構築できたことは、先生の力が大きかったのです。授業において、先生方はわかりやすい方式で日本語を教授して頂いたことは、学習効率も高く、視野も広がり、色々な角度で物事を見ることの勉強になったことは、今後の日本生活において掛替えのないものです。学校生活においても、校長先生と丁先生は学生の様々な不便において、細かくお世話をし、私は異国で親心を感じつつ、安心して楽しく勉強することができました。

進学できた私は、ここで先生方のご助力に対し、感謝の意を表し、先生方の教えを胸に秘めながら、更に努力したいと思います。同時に日本へ留学を希望する学生の皆さん、また既に日本で勉強している学生の皆さんに、ここでの学習生活が楽しく、自分の夢が本当に実現されることを期待しております。